		専門学校	開講年度	平成30年度 (2	ŹU10年度)	授業科目	文学			
斗目基礎	21世紀 10世紀 10世紀 10世紀 10世紀 10世紀 10世紀 10世紀 1				1					
4目番号		0187			科目区分	一般 / 選択				
業形態		講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1	履修単位: 1			
設学科		環境都市	工学科		対象学年	4				
設期		後期	週時間数 2							
科書/教	材	担当者の)指示する教材、担	当者の作成するプリ	ント。					
当教員		猪平 直。	人,堀口 真利子							
カを身(とこつける	は長岡高専 との関連を、 こつける。3 る。30%(b	35%(a1)、(D(A)と主体的に関 評価の重み、学習 ②日本的・伝統的が	わる。この科目の到 ・教育目標との関連 よ思考様式を理解する	達目標と、成績評価」 の順で以下に示す。(5。35%(a1)、③論理	この重み付け, 各立 (1) 古典文学・現代 (1) お文章を書く	到達目標は 文学に関 能力と、基	と長岡高専の する基本的な 基本的な口頭	学習・教育 :読解力・鑑 発表の能力	
<u>ノーブリ</u>	ノック									
						標準的な到達レベルの目安 未到達レベルの目安 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			ルの目安	
古典文学・現代文学に関する 的な読解力・鑑賞力を身につ いる。					古典文学・現代文学に関する読解 力・鑑賞力を概ね身につけている 左記に達			していない。		
			日本的・伝統的 理解する。	りな思考様式を深く	日本的・伝統的な思考様式を概ね理解する。		左記に達していない。			
			論理的な文章を な口頭発表の能	文章を書く能力と、正確 長の能力を身につける。 論理的な文章を書く能力と、基本 的な口頭発表の能力を概ね身につ ける。			左記に達していない。			
- 科の至]達目標耳	頁目との関	 引係							
育方法										
要		担当者のい鑑賞を)選んだ日本の文芸 通して、日本人の る科目:国語(1〜	作品を講読する。担 築いてきた伝統的な 4年)・日本言語文化	当者による講義と、受 価値観や、精神性にで (専攻科1年後期)	受講者による発表 いての理解を深		用し、文芸作	品のより深	
業の進む	め方・方法	受講者に 業参加者	よる口頭発表を行 4全員で質疑応答を	う(受講者全員)。 行う。	事前に発表資料を作成					
意点		市販のテみ、予選	キストを使用する	場合は、担当者が指定の	示するので、各自購 <i>り</i> 典・古語辞典を持参し	、すること。配布 適官利用する	iされたテ	キストや教材	を事前に読	
業計画	 Бі	V J E	10 (0) (00. %	・女に心して、国品研	A DEED COSC	八 起五年 11111 9 6	,			
未可止	<u> </u>	週	極業市		2国・	ブレの到法ロ博				
		+	授業内容 ガイダンス・発表形式の確認と発表担当者の決定			週ごとの到達目標				
		1週			当者の決定 扱う作品と発表担当者を決定 作品の背景、作者について基 先行研究、基本的な文芸理論 解する。					
		2週	近現代文芸作品演	[音(I)						
		3週	近現代文芸作品演	[習(2)				、負料の収り	長に つい (ま	
	3rdQ	4週	近現代文芸作品演	 野習(3)		担当作品について、発表に基づき考察を深める。				
	SiuQ	5週	近現代文芸作品演			担当作品について、発表に基づき考察を深める。				
		6週	近現代文芸作品演		担当作品について、発表に基づき考察を深める 担当作品について、発表に基づき考察を深める 担当作品について、発表に基づき考察を深める					
		7週	近現代文芸作品演							
		8週	近現代文芸作品演							
朝		9週	近現代文芸作品演 古典文芸作品演習			学習のまとめと振り返り。 発表担当者を決定する。作品の背景、作者について				
					本的な事項を理解する。					
		10週	古典文芸作品演習			作品の背景、作者について基本的な事項を理解する				
		11週	古典文芸作品演習			担当作品について、発表に基づき考察を深める。				
	4thQ	12週	古典文芸作品演習			担当作品について、発表に基づき考察を深める。				
	1	13週	古典文芸作品演習	. ,		担当作品について、発表に基づき考察を深める。 担当作品について、発表に基づき考察を深める。				
		14週	古典文芸作品演習							
	1	15週	古典文芸作品演習	省(7)	担	当作品について、	発表に基	つき考察を浴	必る。	
	<u> </u>	16週		+						
]アカリ=		学習内容と到							
類		分野	学習内容	学習内容の到達目	票			到達レベル		
				論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。			、要約で	3	後2,後3, 4,後5,後 6,後7	
	, l \ \ \ \	+		論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の 妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。			の論拠の る。	3	後2,後3, 4,後5,後 6,後7	
礎的能力	力 人文・神科学	II 国語	国語	文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。				3	後2,後3, 4,後5,後 6,後7,後 9,後10,後 11,後12,	

			1	常用漢字の音訓を正	Eしく使える。主	こな常用漢字が書い	ける。	3	後2,後3,後 4,後5,後 6,後7,後 9,後10,後 11,後12,後 13,後14,後 15
				類義語・対義語を原	思考や表現に活用	∃できる。		3	後2,後3,後 4,後5,後 6,後7,後 9,後10,後 11,後12,後 13,後14,後 15
				社会生活で使われ ^っ きる。	ている故事成語・	慣用句の意味や内	内容を説明で	3	後2,後3,後 4,後5,後 6,後7,後 9,後10,後 11,後12,後 13,後14,後 15
				専門の分野に関する	る用語を思考や表	現に活用できる。		3	後2,後3,後 4,後5,後 6,後7,後 9,後10,後 11,後12,後 13,後14,後
				実用的な文章(手紙 を用いて作成できる	 ,・メール)を、相 る。	手や目的に応じた	上体裁や語句	3	後8
			:	報告・論文の目的(情報を収集できる。	こ応じて、印刷物	』、インターネット	トから適切な	3	後2,後3,後 4,後5,後 6,後7,後 8,後9,後 10,後11,往 12,後13,往 14,後15
				収集した情報を分析	折し、目的に応じ	,て整理できる。		3	後2,後3,後 4,後5,後 6,後7,後 8,後9,後 10,後11,後 12,後13,6 14,後15
				報告・論文を、整理 ように論理の構成が	里した情報を基に や展開を工夫し、	こして、主張が効り 作成することがで	見的に伝わる できる。	3	後2,後3,後 4,後5,後 6,後7,後 6,後後9,後 10,後後11, 12,後13, 14,後15
				作成した報告・論3 頭発表することが「	文の内容および自 できる。	1分の思いや考えを	を、的確に口	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,414,後15
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。				3	後2,後3,後 4,後5,後 6,後7,後 8,後9,後 10,後11,6 12,後13,6 14,後15
	相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思 や考えをまとめることができる。						3	後2,後3,後 4,後5,後 6,後7,後 8,後9,後 10,後11,後 12,後13,6 14,後15	
				「たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理 「るための手法を実践できる。				3	後2,後3,後 4,後5,後 6,後7,後 8,後9,後 10,後11,往 12,後13,往 14,後15
評価割合									
WA == /= == ^	レポート	発表	\$	10					<u>合計</u>
総合評価割合	30	40 20		0	0	0	0		100 50
其機的能力	JU								JU
基礎的能力 専門的能力	0	0		lo	0	10	0	ļ	0